

菩提寺山の案内



石造多宝塔

仁治2年(1241年)の銘があり、三体地蔵、石造閻魔像とともに、国の史跡に指定されている。



西展望岩

東北西の3方にパノラマが広がる。晴れ渡った日には、湖北の山並から、琵琶湖、比叡山まで遠望できる。



三体地蔵

中央の地蔵は鎌倉時代、左右の地蔵は南北朝時代の作とされている。中央の地蔵は上に笠を載せている。



東展望岩

裏登山道から登って、最初に展望が開ける場所。菩提寺の住宅地から鈴鹿の山並まで見渡せる。



石造閻魔像(血吹き地蔵)

江戸時代に石工が像と知らずに石を割って帰り、その夜、石から血を噴く夢を見たと言えられる。



重ね岩

裏登山道と、みどりの村登山道との、分岐点にある重なり合った奇岩である。



磨崖五輪塔

自然の岩に五輪塔が5基彫られている。この内2基は彫りかけの未完成である。



西應寺

菩提寺の中で一番大きな寺院。少菩提寺に関する古文書が多く残されている。



寺屋敷古墳

7世紀頃に造られた古墳。当時この地域を支配していた甲可の村主の墓と考えられる。



西應寺禅定岩

西應寺の境内にある、高さ10mの一枚岩。良弁僧正がこの岩で座禅を組んで修行したと言えられる。



矢穴石

平成30年に発見された滋賀県内2例目の矢穴石。鎌倉～室町時代に石を割るために開けられた穴である。



菩提禅寺

禅宗黄檗宗の寺院。本尊の阿弥陀如来立像は国の重要文化財に指定されている。



南峰展望所

南側に、野洲川、湖南市中央の街並、阿星山が望める。



和田神社

少菩提寺の守護社三社の一社。祭神は素戔嗚尊。さんやれ祭が行われる。中世の谷氏居城の谷城に立地する。



龍王社

菩提寺山南峰にある祠で、雨乞いの竜神を祀っている。



八王子神社

少菩提寺の守護社三社の一社。北の天山の麓にあったが土石流のため埋もれ、御旅所の現在置に遷座された。



湖南省の西の端にある菩提寺山は、近年まで地元では「寺山」と呼ばれ、小字名は竜王山です。天平3年間(731年)に良弁僧正が開基した「少菩提寺」が、地名の由来です。寺は伽藍が拡がり栄えましたが、元亀元年(1570年)に、織田信長軍と戦った佐々木六角軍の敗残兵によって焼かれて、再興することなく廃寺となりました。寺の跡は埋もれていますが、廃少菩提寺として国の史跡に指定されています。

菩提寺山の地質は、北東部は花崗岩、南西部はチャートでできています。石造文化財は、この周辺の花崗岩を使ってできています。花崗岩のある北東部では、春にはコバノミツバツツジ、モチツツジが咲き、秋にはタカノツメの黄葉が見事です。初めて訪れる方は、菩提寺まちづくりセンターに駐車または、みどりの村東口バス停で降りて、裏登山道から歴史の小径登山道を通り(逆コースもあり)、眺望を楽しみ、石造物、岩、社寺、花を見て回ることをオススメします。登山道は、滑りにくい靴で散策ください。



モチツツジ
4月下旬～5月中旬



イワカガミ 4月



ガンピ 5～6月



タカノツメ 11月



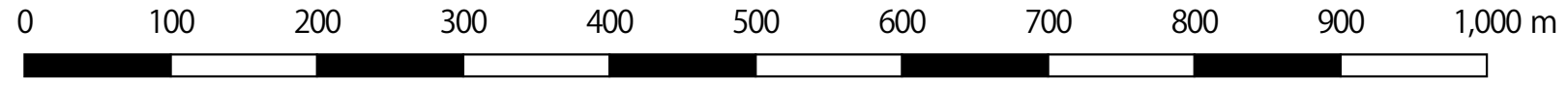
コバノミツバツツジ 3月下旬～4月中旬



菩提寺山登山道

凡例

- みどりの村登山道
- 裏登山道
- 配水池登山道
- 菩提寺林道
- 表登山道
- 和田神社登山道
- 菩提禅寺登山道
- 歴史の小径登山道
- - - 踏み分け道
- 📍 歴史の小径ポイント
- ✿ 展望場所



1 : 5000